

令和6年6月20日開催

令和6年度
福島町議会定例会6月会議
一般質問答弁書

5番 平沼議員

- (1) 三市町交流事業について
- (2) 人口減少に対する考えについて

福島町

【一般質問答弁書】

質問者	5番 平沼 昌平 議員
質問事項	三市町交流事業について

【町長答弁要旨】

平沼議員のご質問にお答えいたします。

昭和62年5月に当時の斎藤町長が長崎県福島町（現松浦市）を表敬訪問したことをきっかけに、長野県木曾福島町（現木曾町）を含めた三福島町による交流が開始され、以後、物産交流をはじめ、小中学生の学習交流や町職員の相互派遣など、各種交流事業を展開してまいりました。

南の九州、中央の本州、北の北海道の三つの地域が持つ、異なる歴史や文化、気候・風土など、その地域が持つ強みや特徴、人と触れ合うことで違いを学ぶ機会となり、これからの社会を担う子どもたちや各分野における町の未来を担う人財の育成につながってきたものと考えているところであります。

なお、職員による相互派遣は各市町それぞれの事情もあり、令和4年度の交流をもって中断となっております。

三市町交流事業の今後の展望については、現事業を基本としながら新たな事業を模索してまいりたいと考えておりますが、昨年度より私からの提案により首長・議長による相互交流が開始され、その中で三市町交流の検証や在り方の協議に加え、各市町の政策や課題の共有を図っております。

今年度の首長・議長相互交流事業は、当町がホスト町として8月7日から8日にかけて松浦市及び木曾町をお迎えすることとなりますので、今後の三町交流のあり方についても協議を進めてまいります。

【一般質問答弁書】

質問者	5番 平沼 昌平 議員
質問事項	三市町交流事業について

【教育長答弁要旨】

続きまして、教育部門における交流事業についてですが、中学生生徒交流として実施しており、毎年、交互に木曾町・松浦市との派遣及び受入を行っております。

参加した生徒は、当町とは全く異なる気候・風土、歴史などを体感し、また、交流市町の生徒との交流を通じ、相手の話を聞き、自分の考えを発表するなど、個人の成長に大変有意義な機会になっていると考えております。

令和6年度についても、7月下旬に木曾町生徒の受入、8月上旬に松浦市への派遣を計画しているところですが、福島中学校では、定員を大きく上回る応募があるなど、生徒の関心が高い事業となっております。

実施時期が、夏季及び冬季休業となることもあり、三市町での休業期間の相違や部活動との重なりなどの課題もありますが、相互調整の上、現活動を基本に今後とも事業を実施してまいりたいと考えております。

【一般質問答弁書】

質問者	5番 平沼 昌平 議員
質問事項	人口減少に対する考えについて

【町長答弁要旨】

平沼議員のご質問にお答えいたします。

全国で昨年1年間に生まれた子どもの数が75万8,631人と前年より5.1%減少し、統計開始以来過去最少を更新しております。

議会の中でも度々申し上げてまいりましたが、人口減少問題は基本的に国の根幹に関わる喫緊の課題であり、国が本腰を入れて根幹的な政策を早期に発動する必要があると認識しております。

私は、就任以来、子どもたちは地域の宝であるとの基本的な考えの下、地域全体で子育てを支える予算に重点を置いた施策を展開してきたところであります。

町では、平成24年度に「福島町ふるさと暮らし応援条例」を制定し、高校生までの医療費無料化や出産祝金の交付等、様々な定住・少子化対策に取り組み、以後、保育料や学校給食費を無料化するなど、順次、子育て支援に関する制度を高めてきたところであります。

日本全体が人口減少社会に突入した中で、それぞれの地域においてできうることには限界がありますが、生み育てやすい環境や定住促進に重点を置いた政策を講じることで、人口減少のスピードを緩やかにすることは可能だと考えております。

この度の福島商業高校の魅力化を進める中で、一筋の光と思える事象として、令和5年度は4名、令和6年度は22名が他の地域から移住して

おります。

移住者の受け入れや若者が地域に定着することで、人口減少スピードの鈍化が図られるものと考えております。